

こうカラッピングバス発進

～新大阪―四日市間を運行～

土山SA停車時刻

行程①	行程②
(上り) 10:40	(下り) 8:09
(下り) 14:14	(上り) 15:20
(上り) 20:00	(下り) 18:44

※行程①と②を交互に運行されます。

高速バス(近鉄バス)の車体に甲賀市のイメージを装飾した「こうカラッピングバス」が完成し、9月29日から運行が始まりました。

新名神高速道路を活用した観光戦略に取り組む「こうかブランドマネ

ジメント会議」(会長:大橋淳一)がデザインを公募し、県内外から応募があった34点から、広島市の木下未来さんの作品を採用。信楽焼のタヌキをメインに配したインパクトのあるデザインで、忍者や手裏剣、東海道の宿場の街並みをイメージした木柵のほか、新名神高速道路も描かれています。両側面と後面に入った「甲賀へ行くこうか」のキャッチコピーとともに、動く広告塔として観光をPRします。



バスの完成を祝ってテープカット(右から2人目が木下氏)

運行開始前日の9月28日には土山サービスエリアでお披露目会が開催され、木下さんも出席。大橋会長や中嶋市長らとともにテープカットで完成を祝いました。

バスは、新名神を經由し、JR新大阪駅―近鉄四日市駅間を1日1.5往復運行します。市内では、土山サービスエリアに停車しますので、ぜひご覧ください。

問い合わせ
観光戦略推進室 観光戦略推進係
☎65-0708 ☎63-4087



動く広告塔として運行を開始したラッピングバス

市内小学生がアニメコンテストで最高賞受賞

各務原市のNPO「k-itシティー・コンソーシアム」が主催する手作りアニメコンテスト「2011かかみがはらアニメコンテスト」で、甲賀市内の小学生2グループが最高賞である各務原市長賞、特別賞に輝きました。

受賞作品は、7月24日にあいこうか市民ホールで行われたワークショップ「体験☆ねんどが動くアニメを作ろう!～クレイアニメの世界へ～」で作成されたものです。同NPOの指導の下、5～6名のグループでねんどを少しずつ動かしながらカメラで撮影し、アニメーションにするクレイアニメの作成に挑戦し、約300コマ30秒の作品を完成させました。

今年で3回目となるワークショップでは、市内から51名が参加、全10作品をコンテストに出品しました。その結果、100点以上の応募があった中から、戸田梓月さん、倉橋もえさん、吉岡保乃さん、堀田若葉さん、堀田優樹さんの作品「夏祭り」が市長賞に選ばれ、審査員からは「表現に工夫があって、夏祭りの楽しさが画面一杯に広がっています」と高い評価を受けました。また、よく知っている話を逆にした発想の面白さが光る、味田梓生さん、仲田優



▲市長賞受賞作品「夏まつり」

代表で賞状を受ける▶
堀田さん

羽さん、高盛ちさとさん、河合南実さん、河合明日美さんによる「ブラックズキンちゃん」がk-it特別賞を受賞しました。

作品は、同イベントでも上映され、来場した多くの人を楽しませました。

甲賀市の皆様へ

東日本大震災後は、電気、電話、水道が使えず食料も乏しい中で、8千人を超える避難者があり、我々も何かから手をつけたら良いかわからず途方にくれたのを覚えています。



大船渡市総務部
防災管理室
鈴木昭浩次長

そのような中、救援物資が届けられるのと同時に、全国自治体から多くの方が応援に駆けつけていただき、様々なお手伝いをいただきました。

災害を受けた市の行政だけでは限界があり、市民の理解、他の自治体や関係機関の協力が大きな力になります。

まだまだ歩みは遅いですが、皆様のおかげで着実に復興に向けて歩き出していますので、いつか新しい大船渡市をお見せできる日を楽しみにがんばります。

災者と向き合い、不安や慣れない生活でのストレスによる心のケアをはじめ、インフラの復旧、まちの復興に行政が担う役割と責任は大きなものがあります。10月末までに予定する者も含め派遣した延べ91人の経験をもとに防災行政にしっかりと反映していくこととしています。さらに、市では本年度、業務継続計画



▲甲賀市職員による大船渡市での給水活動

と地域防災計画の原子力災害対策の策定作業を進めています。業務継続計画は、大規模な自然災害が発生すると、市役所の通常業務は復旧や復興に向けた職員配置になります。一方で暮らして密着した窓口業務も市民生活のうえで継続して行なわなければならない、行政サービスを低下させないよう市役所組織全体を機能的に運営していくためのものです。地域防災計画の原子力災害対策の策定は、東京電力福島原子力発電所の事故の事例から、最も近い原発から80km圏内に位置する甲賀市にも放射性物質が飛来する可能性があることから、情報伝達方法や環境モニタリング、被爆医療体制などを確立し、非難方法や必要な資材等の整備などを盛り込むものです。このように、自然災害時における市民皆さんの安全安心を高めるために、市で

各家庭での防災対策

○災害に強い住まいづくり
家屋の耐震補強、家具等の固定

○非常備蓄品の準備
飲料水、保存食品、医薬品、その他の生活必需品を備蓄。

※家族が3日間程度過ごすために必要な量が目安

○非常持出品の準備

ラジオ、懐中電灯、予備の電池、医薬品、衛生用品、下着、靴下類、雨具、防寒具、簡易食器類、ウェットティッシュ、ポリ袋など、リュックなどにまとめて入れておく。

※季節によって必要なものが異なる
※男性15kg、女性10kgが目安、子どもは自分で持てる大きさを

○地域の避難場所と、避難経路を家族で確認しておきましょう

避難勧告や避難指示が発令された場合であっても、条件によって避難所へ逃げる事は危険を伴います。そのような場合は、家の2階に逃げたり、近くの安全な場所の堅牢な家屋に避難する事も大切です。

問い合わせ
危機管理課
☎65-0665 ☎63-4619



甲賀広域行政組合消防本部
消防総務課 西出敏夫さん

平常時でも隊員や車両など物理的な限界があるように、大規模災害になるほど、すぐに救助に駆けつけられる可能性は低くなります。災害時には、まず自分の身の安全を確保することを考え行動できるよう日頃から備えてください。

■地域によって変わる医療ニーズ、正確な情報発信を



公立甲賀病院
川嶋剛史 副院長

公立甲賀病院では、震災直後DMAT(災害派遣医療チーム)を、その後福島県の避難所へは医療救護班を、医師の不足する病院へは医師を派遣しました。災害の種類や規模のほか、起こる地域によっても必要な医療が変わります。効果的な支援を行っていくためには、どこに何が必要かという現状把握と、正確な情報の発信が大切だと感じました。